

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障害児通所支援事業所 Uサポート高松			
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		～	令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数)	18名
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		～	令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年5月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ゆとりある空間(十分な広さと部屋数)を有効に活用し、運動・学習・クールダウンなど、ご利用者の多様な活動やニーズに応じた柔軟な環境の提供。また、ご利用者の「自己選択・自己決定」を最優先に捉えた主体的な支援を実践している。	ご利用者の主体性を基本に据え、個々の特性に合わせたアプローチを徹底している。また、パーテーション等を活用し構造化もしている。計画的な掃除や危険物の排除など、安全かつ快適な環境整備を徹底している。さらに、日々のミーティングを通じて活発な意見交換と確実な情報共有を図っている	クールダウン空間の明確化を進めるとともに、ストレス発散や感覚統合を促す環境(ボールプールやサンドバック、ウオーターベッド等の導入)の整備について具体的に検討する。
2	個別支援計画に基づいた支援の実践とご家族および職員、関係機関との円滑な連携・迅速な情報共有の構築	ご家庭からの相談事に対しては、速やかに職員間で共有し、迅速な対応を心掛けている。送迎時や電話相談の機会を捉え、ご利用者の状況をフィードバックするよう努めている、また、毎日の振り返りミーティングで次回の支援方針を明確化し、参加できない職員には共有ノート等で共有して確実な情報伝達を行っている。	ご利用者の小さな変化をより早期に捉え、支援の充実や質の向上を図る。(特に情緒不安定になりやすいご利用者へのアプローチの強化)合わせて、ご家庭との情報共有をより安定的かつ継続的に行い、より安心感を提供できるように努める。
3	同一事業所内に就労継続支援B型事業所や生活介護事業所が併設されている強みを活かし、日常的な交流の機会の創出や、将来的な移行がスムーズに行える環境を整えている。	ご本人の希望やニーズに応じB型の体験活動を支援プログラムに導入している。B型スタッフと密に連携し、個々の特性や段階に応じた体験内容の提供を実施しているほか、合同行事の開催を通じて幅広い年代のご利用者との交流の機会を設けている。	個人情報の取り扱いに厳重に留意しつつ、事業所間での高水準な情報共有をさらに活性化させ、ライフステージに伴うスムーズな移行・連携の仕組みを強化する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・人員配置基準は満たしているものの、特定の時間帯や状況において保安体制に不安が生じる場面がある(自己評価結果より)	事業所の部屋数が多く目配りが必要な範囲が広いこと、および送迎時間が重複することで一時的に多くの人員が送迎業務に割り当てられるため。	バックアップ体制(職員間の連携や応援体制)を強化するとともに、動線の見直しや、見守り対象・優先順位の整理を行うことで隙のない安全管理体制を構築していく。送迎ルートや対象学校数の固定・整理を進め効率的な人員配置を行う。
2	・地域との交流の機会や、保護者同士が交流できる機会が少ない。また、ペアレント・トレーニング、父母の会の活動支援、きょうだい児への支援や交流機会の提供など、多角的な家族支援の実施に至っていない(事業所評価より)	日々の支援や運営を最優先としているため、地域との連携機会や交流への参加に十分な時間を割くことが難しい。	地域行事や関係機関との関わりを視野に入れ、無理のない範囲で交流の機会を模索している。また、保護者同士の交流や各種支援機会についても、ご家族のニーズを踏まえながら検討していく。
3	非常時等の対応についてご家族から「わからない」との回答が前回に引き続き多く見られた。また各種マニュアル(事故防止、緊急時対応、防犯)が掲示されているものの、保護者や職員への浸透度が低い(事業所評価より)	会報等を通じて情報発信や啓発を行っているが、周知として不十分であること、また、避難訓練等を午前中に実施することが多く、放課後等デイサービスのご利用者の参加が難しいため	マニュアルの配布方法や啓発の手法を見直すとともに、放課後等デイサービスのご利用者が実際に参加できるよう、訓練の実施時間の調整を検討する。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 障害児通所支援事業所 Uサポート高松

公表日 令和8年5月21日

利用児童数 令和8年2月28日

回収数 18

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18				・サッカー等しっかりと身体をうごかして遊ぶスペースもあり、いつも楽しそうです。 ・とても広くて活動しやすそうです。	・ご利用者の多様な活動やニーズに応じた柔軟な環境の提供しています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	15			3		
	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14	1		3		
	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	16			1	・無回答 1	
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	18					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14	2		2		
	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	18					
	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	17	1				
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	18					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	17				1	
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	6	3	2	6	・無回答 1 ・デイサービスで異年齢の子も多いので充分満足している	・今後も異学年、異年齢の交流の継続、地域活動にもアンテナをはって参ります。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	17			1		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16		1	1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8		3	5	・無回答2	・ご希望のご家庭には研修会等のご案内をするようにいたします。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	18				・どの職員さんも迎えに行った時に子どもの様子を詳しく教えてくださり、いつもありがたいです。 ・発達の困り事について相談すると、すぐに対応していただきました。	
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	14	2		2		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	4	2	4	6	・無回答2 ・現状で問題ない	・ご希望のご家庭には研修会等のご案内をするようにいたします。
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	15		1	1	・無回答 1		

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	18					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	15			1	・無回答2	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	16			2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	11	1	1	5		・各種マニュアル等については改訂時等の機会に情報提供を検討いたします。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	1		8	・無回答1	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	14	1		3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16	1		1	・どんなに細かいケガでも必ず説明してくださります。	
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	18					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	18				・毎回楽しみにしています。友だちと遊びことをもちろん職員の方と遊んだり話したりすることもとても楽しいようです ・とても楽しみにしています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	18				・子どものことをよく見てくださり、親子共々安心して利用することができます。 ・毎週リサボートに行く日を一番楽しみにしているようです。職員さんが優しく子に寄り添ってくださっているのが子どもからよく伝わってきます	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		障害児通所支援事業所 Uサポート高松		公表日		令和8年5月21日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10			・日によって、職員が足りなく子供たちを待たせる時がある ・職員の休みが重なってしまう場合は円滑な運営が難しい		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	2	・配置基準を十分に満たしている	・ご利用者の特性に合わせ環境設定を行っているが改善の余地はある		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	1		・ご利用者の特性に合わせ環境設定を行っているが改善の余地はある		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		・部屋数が多いため掃除は計画的に行っている	・エアコンを守るための柵を作り、スポーツをする部屋の空間づくりができています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		・学習やクールダウン時など一人になりたいと希望される場合は適宜個別の部屋を使用している ・体調やクールダウン時に必要な部屋は準備している			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9	1	・関係職員間での情報共有を行っている			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	・年に1度アンケートを実施している			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		・月に一度の会議や定例会、毎日の打ち合わせで発信しやすい環境を作っている			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	3	・ご意見箱を設置している			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		・研修案内を全職員に回覧し、希望があればできる限り受講してもらっている			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		・ホームページに掲載している			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	1	・相談支援専門員や各学校の先生方と情報交換を行い、計画の見直し等を適時行っている			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		・毎日ミーティングを行い、意見交換ができています			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	2		・計画の明白化を提示してくれると良いと思う。 ・職員の経験値によって支援の質に差が出てしまうことがある		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	1	・通所時の言動や家庭での様子を情報提供していただいたうえで、内容を反映している			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		・本人への支援（5領域）、家族支援、移行支援、地域支援、地域連携等を踏まえ、支援内容を決定している			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		・本人、ご家族の要望や希望を最優先して立案している			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	1		・利用者様主体な活動を取り入れているので固定化しやすい ・利用者の自己選択、自己決定を重視しているため固定化しにくい		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		・年齢や障害特性により集団活動への参加が難しい利用者にはハードルを下げる(まずは見学だけ)などの工夫をしながら促している	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	1	・打ち合わせに参加できない職員にはノートやボード等で共有を図っている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	1	・翌日に当日と前日の支援の振り返りとして打ち合わせを行っている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	1	・できるだけ簡単かつ具体的に記録している	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		・定期的に実施している	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	9	1	・ガイドラインを参考にした活動や支援を行っている	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	1	・自己選択、自己決定を第一に考えた支援を行っている。	・プログラムの固定化、新しいことへの挑戦機会の不足など
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		・児童発達支援管理責任者が必ず参加している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		・必要な関係機関と連携している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9		・ご家族や学校と連携し、共有を図っている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		・必要に応じて行っている	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8		・スムーズに移行できるようにできる限り協力している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7			・今のところ機会はない
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	5	・他の子どもは様々な学校から利用者がいるので出来ている。	・立地的なものもあるが児童館との交流はできていない。 ・今後の課題である
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7		・児童発達支援管理責任者が参加している	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		・必要に応じて電話相談や面談を行っている	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	3	・ご家族への情報提供を適時行っている	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		・利用契約時に利用契約、重要事項説明書、支援プログラム等の事項について説明している	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		・アセスメント時に本人とご家族の意向を確認している	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9		・サービス計画の説明を行い、同意を得ている	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		・必要に応じて電話相談や面談を行っている	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	5		・今後の課題である
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10			・令和7年度については苦情の連絡はなし ・苦情が寄せられた際には適切な対応を行う
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	10		・毎月の会報や定期のおたよりで発信している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		・十分に留意し、取り扱っている	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		・特性に寄り添った対応を行っている	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	5	・併設する就労B事業所の利用者との交流はある。 ・地域の警察や団体等を外部講師として招く取り組みを行っている	・地域住民を招いた行事は行っていない。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10		・各種研修や訓練を定期的に行い、必要に応じてマニュアルの見直しを行っている	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		BCPを策定し、災害時の訓練を定期的に行い、必要に応じて見直しを行っている	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	10		・服薬やアレルギーについて契約時と年に1度確認書の記入をしていただいている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10			・対象となる利用者がご利用される際に対応していく
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		・安全計画に基づき点検を行い、安全管理を行っている ・防災・防犯訓練等を定期的に行っている	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		・安全計画を施設内に掲示している	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		・些細な事案であってもヒヤリハット事故報告書を作成し、職員間で情報共有と再発防止に努めている	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		・年間計画に沿って実施している	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10		・身体拘束が必要である場合にはご家族の同意のうえ、適切に対応している ・身体拘束廃止委員会を定期的開催し、職員のスキル向上に努めている		